

大地の帯 - 自然と都市の織りなす Earth Green Network -

豊かな生態系と既存交通網の高架下を活用し、大阪平野に市民が主体的に接することのできる「大地の帯」を提案します。動植物・エネルギー・人の活動のサイクルを生み出すシステムとして、緑と一体となった土の帯が新たなネットワークを構築し、大阪という都市ならではの景観を形成します。



- ①おおさか地熱エアコン**
大阪の地域の土を利用。土の毛管現象を利用し地中に含まれる水分、温度を隆起した土の上部まで吸い上げ、人間にとって快適な環境をつくる。
- ②みどりのカーテン**
周囲のビル風を緩やかにし、都市に緑の香りを運ぶ。都市の浮遊粉塵を絡めとることで都市の空気を浄化し、室内に心地よい微気候が生まれる。
- ③洞窟オフィス**
土壌による安定した室内温度の小規模オフィスやミーティングラウンジ。内部のダクトが室内の湿度を調整し、季節や時間の変化に対応する。
- ④秘密の隠れ家**
昼寝をしたり、本を読んだりしてもいい少し限られたスペース。植物のカーテンを通して涼しい風が入る、落ち着いた雰囲気の小さな場所。
- ⑤とりの住処**
小さな開口部は鳥の隠れ家になり、そこから生える植物や近くの落葉樹からとれる実は鳥のえさ場になる。鳥たちにとっての都市の楽園。
- ⑥土盛りベンチ**
夏は涼しく、冬はあたたかいベンチ。土や緑の壁に囲まれた、和室のような半屋外空間です。バリアフリーで気軽に利用できる憩いの場所。
- ⑦立ち飲みジュース屋台**
有用植物を植え、地域で収穫した野菜や果物からジュースをつくりまわす。食生活が不安定になりがちな現代人に欠かせない現代の屋台です。
- ⑧花蝶風緑**
四季にあわせて呼吸する緑のネットワークはまち全体の空気を循環させ、心地よい風を生み出す。自然のエアコンとして機能します。
- ⑨自然共生学校**
地上をみて、地下を見ず。在ることが当たり前前の生活において、生き物の生態や四季の移り変わりから自然と都市の"共生"を学ぶ"土の学校"。
- ⑩誰もが農家レストラン**
日替わりでオーナーが替わり、やさしい棚畑で収穫した野菜や里山の山菜を用いた料理が食べられる。都市で「農」を中心として集まる拠点。
- ⑪花のみち**
工場からの排熱を利用して冬でもほんのり暖かい道に。内部では熱を用いた温室、外には季節に合わせて花を植え、歩いて楽しい道にします。
- ⑫やさい棚畑**
野菜が立体的に並ぶ畑は利用者の野菜の消費量を可視化し発信機能も持ちます。野菜を収穫後は趣味を飾る棚(孔)としても機能します。

■大阪の土のポテンシャル



大阪府の建設発生土は年間約 540 万m³ですが、都市化の進展により受入地の確保が困難となっています。

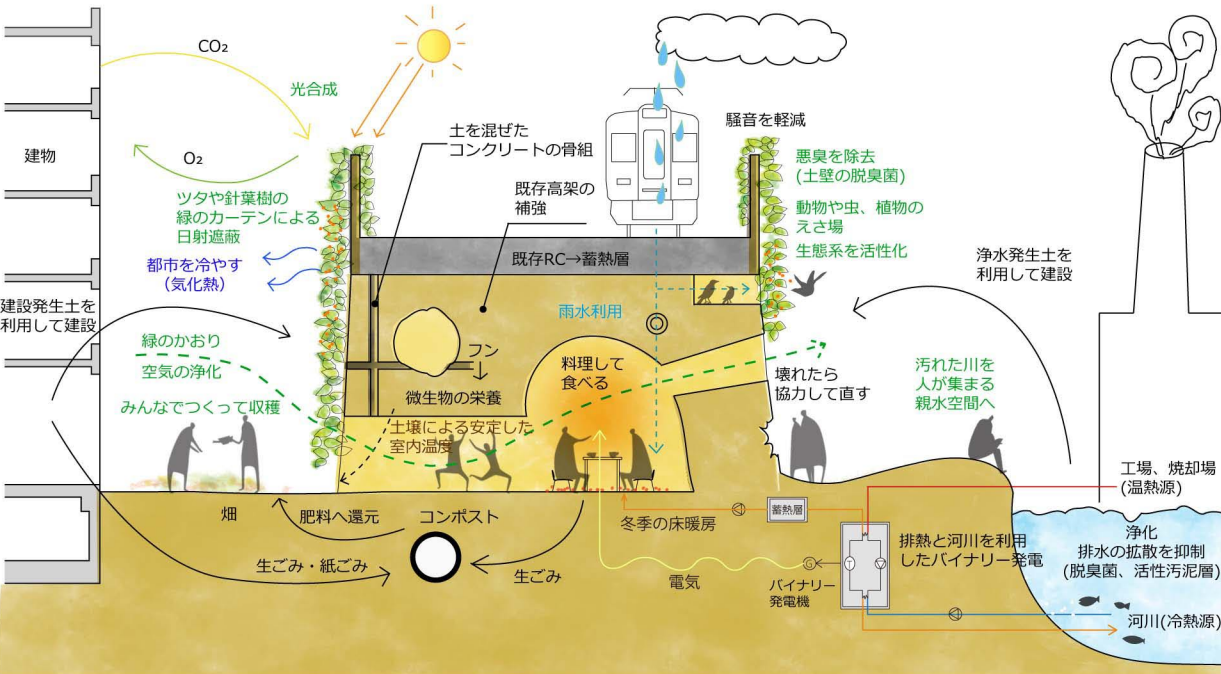


大阪市の浄水発生土は年間約 2 万 t ですが、43%が有効利用されず埋立て処分されています。



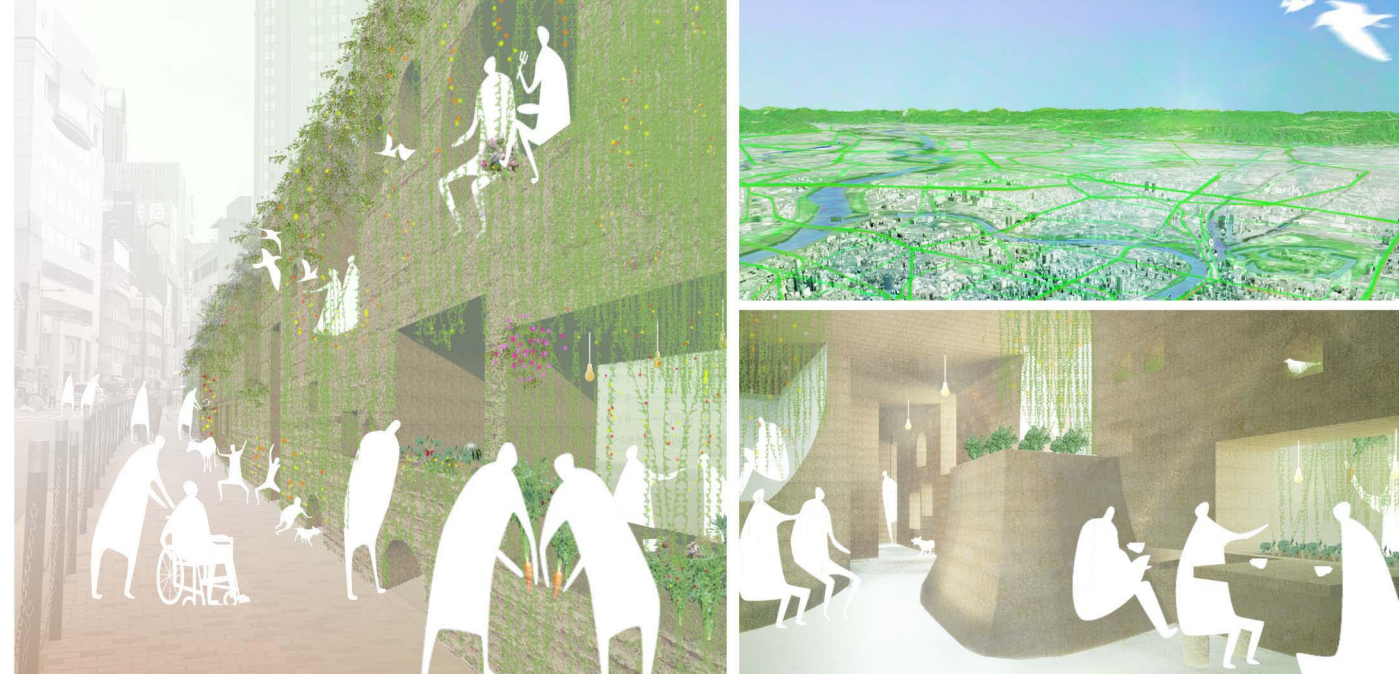
大阪市には豊富な真砂土が分布しており、それは東京にはない大阪独自のポテンシャルであるといえます。

■大阪の土がつくる動植物・エネルギー・人の活動ネットワーク



大阪の土を構造として利用し、自然に挟まれた都市だからこそできるエネルギー循環システムを設けます。地域分散型エネルギー源として、非常時にも強いインフラシステムです。「大地の帯」はつくられた電気や熱を分配し、動植物・エネルギー・人の活動を循環させるネットワークを構築します。

■土に触れる、緑に寄り添う、都市生活ネットワーク | ケーススタディ 阪急電鉄 茶屋町近辺



「大地の帯」は周辺環境に呼応して使われ方が変化します。大阪中心部の入口である茶屋町近辺を走る阪急電鉄の高架下に「大地の帯」を設けた場合、例えば上記の 12 の活動が生まれ、茶屋町近辺が自然と共生する都市の魅力の世界へ発信する社会的、文化的空間となります。私たちみんなで支える、大阪らしい都市景観の骨格です。